

**SICORP「国際共同研究拠点」(ASEAN)
中間評価報告書**

1. 評価の概要:

対象領域: 環境・エネルギー、生物資源/生物多様性、防災

対象期間(研究実施期間): 2015年10月1日～2017年9月30日

2. 研究課題名:

「日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点—持続可能開発研究の推進—」

3. 研究代表者名:

日本側: (所属機関/部署) 京都大学東南アジア地域研究研究所

(役職) 所長

(氏名) 河野泰之

4. 評価コメント

タイ(環境・エネルギー: NSTDA)、インドネシア(生物資源・生物多様性: LIPI)、マレーシア(防災: MJIT)に共同ラボが設置され、日本・ASEAN 科学技術協力の持続的促進、共同研究成果の創出、成果の社会普及・社会実装を目的とする JASTIP (Japan ASEAN Science, Technology and Innovation Platform) に対する ASEAN 域内各国・事務局等における理解と認知度は顕著に高まっており、「日本の顔の見える」国際共同研究拠点は形成されつつあると評価し得る。これらの拠点における各種ワークショップ・シンポジウム等の活発な活動を通して、ASEAN との科学技術連携強化につながっている。とくに、ASEAN 域内の 42 件の SATREPS プロジェクトを俯瞰して、SDGs への貢献に向けて利活用可能なプラットフォームの形成を目指そうとする姿勢は高く評価できる。ASEAN 域内における研究ネットワークの構築と共同研究成果に関しては、チュラロンコン大学、アジア工科大学、ガジヤマダ大学、フィリピン大学、ベトナム水資源大学等との研究ネットワーク構築が進んでおり、本課題が対象とする環境・エネルギー(WP2)、生物資源・生物多様性(WP3)、防災(WP4)の分野において共同研究成果が順調に蓄積されつつあり、その多くは学術論文として発表されている。ただし、総括チーム(WP1)が中心となって取り組む SDGs への貢献という観点からは、中間評価の時点では JASTIP の個別の研究開発目標に向けた取り組みの段階に留まっている。

今後の課題としては、我が国が ASEAN に蓄積してきた広範な関連研究者・研究成果に関する情報をデータベースとして整備し、産業界を含む広範なステークホルダーによる利活用を通じたイノベーションへの道筋を展望することが望まれる。この点では、第4回 JASTIP シンポジウムで実現したいいくつかの企業、現地法人の参加は、イノベーションに向けた産学連携強化への第一歩として評価できる。